ま・ち・か・どズームIN!

みなさんからのすてきな情報を待ってます!

いつまでもお元気で

敬老祝金・記念品贈呈

敬老の日を前にした９月10日、市内のお年寄りのお宅を川井市長が訪問し、長寿を祝福しました。

お年寄りたちは、温かい家族に囲まれ、幸せそうでした。

▲男性最高齢の半田さん

◀市内最高齢の川口さん

市からのお祝いとして、今年度に99歳の「白寿」になられる方には金杯が、100歳を超える方には松竹梅敬老祝金10万円が贈られました。

なお、今年度中に100歳になられる方には、誕生月に特別敬老祝金が贈られます。

白石市長寿者名簿

（敬称略・年齢は９月末現在）

103歳	川口　さと	（越　　河）
101歳	米澤トラヨ	（堂 場 前）
100歳	佐藤たかの	（福岡深谷）
	草野　とめ	（東 大 畑）
	太田　むめ	（田　　町）
99歳	大森　しん	（不澄ケ池）
	片岡　愛子	（福岡蔵本）
	小泉ゑなよ	（小　　原）
	齋藤ひろい	（半沢屋敷前）
	佐々木たつ	（大平森合）
98歳	齋藤ひろせ	（小　　原）
	山田　ヒサ	（越河五賀）
	川村　ひさ	（長　　町）
	半田　　盛	（郡　　山）

海老名・白石親善少年野球交流大会

８月23日、姉妹都市神奈川県海老名市との親善少年野球大会が益岡公園野球場で開催されました。

青空の下、両市の選抜チームが対戦。この日行われた全国高校野球の決勝戦に負けないくらいの好ゲームを展開し、交流を深めました。

ヘルスメイト白石中央講習会

８月27日、健康センターでヘルスメイト白石の皆さんが、手打ちそば研修を行いました。講師は白石興産㈱手打ち工房の高橋さんと高野さん。そばの香りを味わいながら、楽しく打ち方やゆで方を学びました。

越河小と福岡小で地震避難訓練

昨年度に実施した耐震診断の結果、越河小と福岡小で補強が必要と診断されました。市では今後、耐震補強工事を実施する予定ですが、予測できない大地震発生に備え、白石消防署の指導のもと、９月中旬に両校で地震避難訓練を実施しました。

◀福岡小の避難訓練

食生活と歯の健康を考えました

「食」と「歯の健康」のつどい

９月14日、白石歯科医師会などが主催して、「食」と「歯の健康」のつどいが、ホワイトキューブで開催されました。

白石の特色ある食材を使った料理を競う「スローフードコンテスト」を始め、服部学園理事長の服部幸應氏を迎えての食育に関する講演会、歯に関する相談・健診コーナーなど、食生活と歯の健康に関する多彩な催しが提供されました。

なお、スローフードコンテストの最優秀賞は、齋藤恵子さん（東町）の斎川凍豆腐や昆布、野菜などをいためて煮込んだ料理「ひき煮しめ」でした。

「知事さん、あのね…」

浅野知事とふるさと懇談会

８月26日、浅野史郎宮城県知事が来白し、市民と県政について気軽に語り合う懇談会「知事さん、あのね…」がホワイトキューブで開催されました。

懇談会のテーマは、「市民とのパートナーシップによるまちづくり」。

多くの市民の皆さんが、客席にまで入り込むほど熱の入った浅野知事と直接向き合い、障害児教育や環境、農林業、ボランティア活動などについて、日ごろの思いを親しく語り合いました。

気持ちよく小原地区体育祭を

地区民ボランティアで校庭整備

小学校と共催で行われる地区体育祭を前に、８月24日の早朝、小原地区の皆さんが、会場となる小原小中学校校庭の整備作業を行いました。

小原公民館運営委員会が小原小中ＰＴＡと連携し、地区民に呼びかけをして始められたこの作業は、今年で２年目となりました。

早朝にもかかわらず、昨年より多い約280名が除草作業や土手の草刈りを行って、校庭の草が見る間に消えていきました。小中学生の保護者たちも、子どもたちが安全に運動や部活ができると大喜びでした。

みんなですすめる交通安全

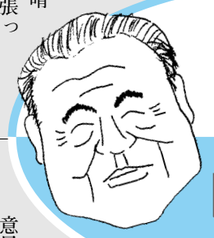
全国キャラバン隊が白石を通過

「交通安全は家庭から」を活動指針に、各種活動に取り組んでいる交通安全母の会では、交通安全意識の高揚を目指して、全国一斉のキャラバン活動を毎年展開しています。

９月５日、新潟を目指す宮城県キャラバン隊の７名が、ホワイトキューブに立ち寄って、白石市の関係者約400人を前に、市長あての交通安全メッセージを伝達しました。

会場では、中央公民館童謡講座の皆さん約60名による「ふるさと」など５曲の合唱も披露され、温かく隊員を激励していました。

川井市長の せせらぎトーク



「懐かしい味」

九月十四日は、行事の多い日であった。八時半からスパッシュランドで、姉妹都市国際親善水泳大会の開会式が行われた。

九時十五分からは、みやぎ蔵王高原マラソン。今回で十七回を数えるが、ほとんど晴れた日はない。土砂降りの時もあった。今回、台風一過。晴れていたが、テントが一つも張られていない。聞いたら、風で飛ばされてしまったという。蔵王おろしの猛烈な風だ。やむを得ないことだろうと思ったが、あいさつの中では「さすがに実行委員会です。今日は晴れるのを予想して、天幕は張っていないと思ったら、実は風で飛ばされたんだそうです」と笑いを誘っておいた。

十一時からはホワイトキューブで、白石歯科医師会主催の食と歯の健康のつどい『未来に残したい白石のスローフードコンテスト』が行われた。

このイベントは、料理の鉄人などに出演する、服部幸應さんが審査委員長である。私にも、審査委員になれと言う。審査の評価点が五項目あったが、そのほかに、『懐かしさ』を加えて欲しかった。『おふくろの味』があらゆるものに勝るはずだから。

優秀賞は、三者の争いになった。「けんちんすいとん」を推した私は、全く見当違いの意見を述べた。

「今、ＷＴＯの閣僚会議がヤマ場に来ています。日本の主張はことごとく退けられる。日本の農家は、低い関税と低い補助金でも経営が可能な、企業による農業になってしまう恐れがあります。農業は、白石の基盤産業である。農業、農家がなければ、白石のすべてが崩壊すると考えています。この作品はそういう意味で、転作で小麦の生産に取り組んだ人たちの作品です。これを地元の人に食べてもらう。まさに地産地消です。だしは、肉ならもっと濃厚な味が出ると思いますが、昔ながらのにぼしとかこぶを使った薄味が、非常に懐かしいではありませんか」

出品者の白石の農業にかける思いが通じたのだろう、これも二つある優秀賞の一つに滑り込んだ。ほかにも、柿の里構想をふまえた『ころ柿のしそ巻き』、小原寒くずを活用した『しらあえ』などは、白石型デカップリングの大きな推進力になると感じた。

もっとも、私の審査はあてにならない。

えずこホールの設計のコンペで、現在の建物の設計は一回戦で振り落とされてしまった。委員長である東北大学の伊藤先生が、敗者復活を認めましょう、とのことだったので、手を挙げて「このえずこホールをぜひ敗者復活させていただきたい」「なぜですか？」「えずことというのは、蔵王山ろくの文化ですよ。それをイメージしたものですから。また、屋根のグリーンが何ともいえないですね。私は、皇居の屋根を思い出しました」管理して使う人がそう言うのではと言って、敗者復活した。なんとそれが、堂々の優勝ということになった。幸いに大河原の方々を中心に、活用されている。

ただ一つ気に入らないのが、屋根の色だ。私がイメージしたのは、皇居の屋根の見事な銅板葺きであった。えずこホールの、あの黒と青のまだらの模様は、何とかならないものだろうか。懐かしさなどかけらもない。

えずこホールの管理は、仙南地域広域行政事務組合である。その管理者としての吐息である。